

色覚障害者のための 食べ時判定アプリの提案



日本工学院八王子専門学校 ITスペシャリスト科
下地康平・室賀翼・吉野太雄・増淵凌也・木崎悟

1. 社会・目的

社会背景

- 日本には現在, 約1.2億人が在住しているがそのうち1/20の割合に色覚的な障害を抱えて方がいる. (出典: 公益社団法人 日本眼科医会)

環境

- 人間は外部から情報を得るのに五感を用いるがそのうち視覚が占める割合は9割にも及ぶ. (出典: ユニバーサルデザイン 高速印刷株式会社)



目的

- 色覚障害を抱えた方は視覚からの情報が少ない為, 視覚を要する料理(焼き加減、茹で加減)の手助けをすることで障害を抱えた方でも楽しく食事を楽しむことのできる社会を目指す.

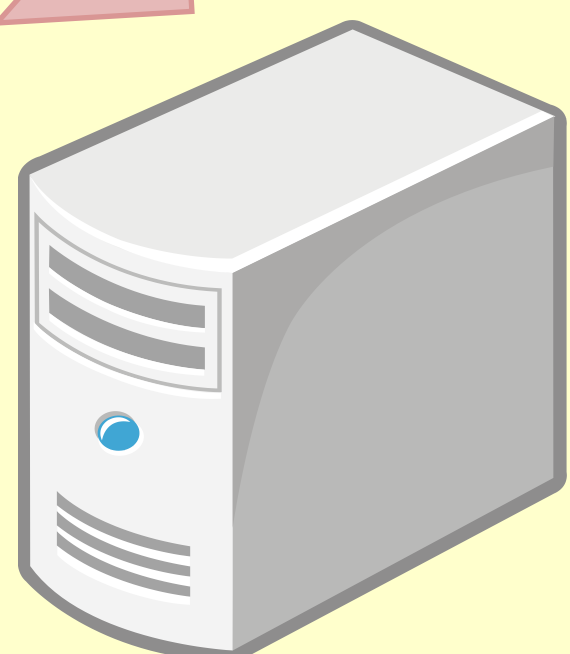
2. アプリ概要



①クライアントが料理を撮影

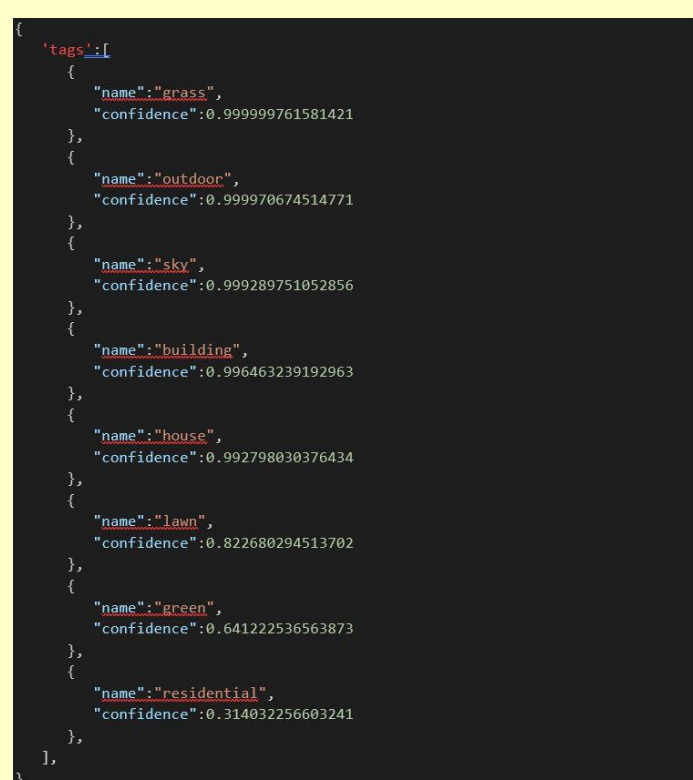
②リクエスト
(焼肉の画像情報)

JSONを解析して「色」
情報を抽出.
焼け具合を通知する.



Computer
Vision API

③レスポンス
(送信された画像を
学習済みモデルで
分析し, 結果を
JSON形式で返却)



3. 仕様

開発環境

- Android Studio

使用ライブラリ

- Computer Vision API (Microsoft)

言語

- Java
- JSON

4. 食べ時判定アルゴリズム

